

# ジェロントロジー 対談企画

世界最高齢のプログラマー 美馬市長  
若宮 正子さん × 加美 一成

年齢にとらわれず新しいことに挑戦し続ける若宮さん。対談では、「人生100年時代を楽しむコツ」について、たくさんの貴重なお話を伺いました。

## デジタル技術で人生100年時代をもっと豊かに

**加美** 若宮さん、今日はお時間をいただきありがとうございます。「世界最高齢プログラマー」として一躍有名になられた若宮さんのお話を聞けるなんて、とても光栄です。この後の講演会を楽しみにされている市民の方もたくさんいらっしゃいます。

**若宮** こちらこそお声がけいただきありがとうございます。でも、気が付いたら有名になってたっただけで、特別なことをしたという実感はないんですよ。

**加美** パソコンを独学で習得されたんですね。何かきっかけはあったんですか？

**若宮** きっかけになるような出来事はなくて、もともといろいろなことに興味を持ちやすい性格で、その興味のうちのひとつがパソコンだったというだけなんです。貯金をおろしてパソコンを買って…。結構な出費だったので、周りからは「そんなお金があったらダンスとか着物を買ったほうが良かったんじゃないか」と言われ、珍しがられました。

### 若宮 正子さん

1935年東京生まれ。高校卒業後に三菱銀行(現在の三菱UFJ銀行)に入社して定年まで勤務。58歳からパソコンを独学で習得し、80歳でゲームアプリの開発を始めた。アップル社が世界の開発者向けに開く会議にも招待され「世界最高齢のプログラマー」として知られる。



**加美** でもその買い物が、若宮さんのその後の人生を変えるわけですね。スマートフォンのゲームアプリ『hinadan(ひな壇)』の開発に至った経緯はどのようなものだったのでしょうか？

**若宮** スマートフォンがはやり出したのですが、高齢者が楽しめるアプリが全然用意されていませんでした。若い人に相談したら「若宮さんが自分で作ったらいい」と言われて、教えてもらいながら、半年くらいかけて開発しました。

**加美** そのアプリの開発で、ご自身を取り巻く環境が大きく変わられたんですね。

**若宮** いろんなメディアからお声がけをいただくようになりました。米国のアップル社から「CEOがあなたに会いたがっています」というメールまで届いて。友だちからは「それは詐欺メールだよ」なんて忠告までされたんですけど、本物でした。

**加美** デジタル庁でのお仕事、講演など、現在も多方面で活躍されていますが、今後若宮さんが目指していることはどのようなことですか？

**若宮** 私は目の前にあることをやっているだけなので、長期的な将来の目標を定めているわけではありませんが、誰一人取り残されない、人にやさしいデジタル改革のお手伝いをしたいと思っています。特に、老いてこそデジタルが必要だと考えています。デジタルは便利です。「あの、きゅうりに似てる野菜の名前って

何だっけ?」と思ったら検索ソフトに「きゅうり、似てる、野菜」と覚えている単語を入力すれば「ズッキーニ」という単語を導き出せます。これからはテクノロジーのお世話になって、高齢者は自立しなくてはなりません。例えば、ネットショッピングを活用すれば、外出が困難になっても買い物に困ることはないでしょう。

**加美** 高齢者の中にはデジタルに対して苦手意識を持っている方が多いという印象があります。美馬市では、そうした課題に対応するために、高齢者向けのスマホ教室などの取り組みを行っていますが、アドバイスをいただくと助かります。

**若宮** 高齢者にデジタルサービスを使ってもらうには、操作方法だけでなく、それを利用することでどんな楽しいことができるのかをしっかりと伝えていくことが大切です。地域独自の交流サイトを作って、リアルとオンラインで交流を深められるような仕組みを作るのも面白いと思います。

**加美** ありがとうございます。参考にさせていただきます。最後に、「人生100年時代を楽しむコツ」を、市民に対するメッセージとしていただけますか？

**若宮** 失敗を恐れずに、とりあえずやってみましょう。まずはバッテリーボックスに立って、バットを振ってみればいいんです。そうしたら何かしらに当たるかもしれないでしょう？まずは、やってみましょう。

### 取材を通じて



対談後に行ったジェロントロジー講演会(6月30日、地域交流センターミライズ美馬市民ホール)には、362名の方が来場しました。内容だけでなく、1時間30分にわたる講演時間中ずっと立ったままでお話しされた若宮さんの姿に感銘を受けた方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。89歳になってもなお、若宮さんはご自身のことを「まだまだ未熟」とおっしゃいます。好奇心と創造力、そして思考の柔軟性があれば、人生に遅すぎるといえることはないんだと、人生100年時代における自分の人生への向き合い方を改めて考えさせられました。

